

農協改革「地方創生に逆行」

政権へ働きかけ要請

安倍政権が進める農協改革について、JA山形中央会幹部ら県内の農協関係者と、県選出の自民党国会議員らによる意見交換会が1日、山形市内であった。中央会幹部らは「政権の目指す農協改革は地方創生と逆行し、地方に多大な影響を与える」などと強く批判。国会議員らに政権に対する働きかけを求めた。

遠藤氏「声反映させたい」



県JAビルで開かれた意見交換会には、遠藤利明氏、鈴木憲和氏、加藤鮎子氏の衆院議員3人と、大沼瑞穂参院議員が参加。多数の自民党県議と、県内全17農協の代表者も集まった。報道陣には、農協側からの報告と国会議員のあいさつまでが公開され、意見交換は非公開で行われた。



⑤農協関係者らに話しかける遠藤利明衆院議員。隣は大沼瑞穂参院議員の意見交換会に臨む長沢会長も務める遠藤氏は「党

冒頭、JA山形中央会の長沢豊会長が「生産現場を無視した議論で農協改革に突き進んでいる。地方創生を進める上で農協の役割は大きく、農協の自己改革が欠かせない」とし、「(国会議員の)先生方には、政府と党に対し強い働きかけをお願いする」と訴えた。これに対し、自民党県連

として(改革案を)まとめるにはまだ段階がある。皆さんの声が反映されるようにしたい」と話し、「一昨年のこともある。けんかにならないよう、しっかりと話し合っていきたい」と述べた。自民党県連と県内JAグループは、2013年の参院選で県農協政治連盟が自民党の対立候補を支援し関係が一時悪化、昨年4月に遠藤氏と長沢氏が直接会って関係を修復した。一方で、鈴木衆院議員はあいさつの中で「全中(全国農業協同組合中央会)が農協の会計監査をすることには、(身内だから甘くなってしまうだろう)という指摘があり、これは厳しく受け止めないといけない」と指摘した。長沢会長は意見交換会後

に記者会見し、農協側から「全中が強制的な指導をしている事実はない」といった声や、「農協改革がどう農家所得の増加に結びつくのか」といった疑問、「組合員でもない人の声を拾っているのではないか」といった批判が出たことを説明した。自民党の農協改革の素案は、全中の地域農協への指導・監査権をなくすなど全中の権限を弱める内容で、全中が強く反発。各県の中央会などの中にも見直しを求める動きが出ている。長沢会長は「こちらの主張を十分聞いてもらえたと思うが、会計監査の必要性は我々がもっと説明する必要がある」と話した。(井上藩)